

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100544		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム多治見 ひまわりユニット		
所在地	岐阜県多治見市旭ヶ丘町7-9-12		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171100544-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の自立支援をすすめるために、令和1年12月よりご利用者様の1日の水分・栄養(タンパク質)の摂取量を高め・運動を強化することによる、筋力運動を推奨に取り組んできました。この取り組みにより、昼夜逆転傾向の方の減少や、高齢の方であっても食事をもりもりと取ることが出来、元気に日々生活されています。
令和5年5月より、新型コロナも5類に以降しコロナ前の生活に戻りつつあり、その時の状況に合わせ対応を行っております。地域活動への参加も地域の方々と連携を取りながらすすめております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の実践の方向性を示す法人理念、ミッション、ビジョンの再認識・浸透を確実なものとするための取組みを昨年度より始めている。目的を持って実践し、効果が見えることで、職員の意欲向上を図るサイクルを作っている。職員には勤続年数の長短があり、長い職員のリーダーシップが発揮されている。利用者本位の対応をするためには、職員の精神的な余裕が必要であり、職員同士のフォロー体制と、いつでも相談できる良好なコミュニケーションにより実現されている。
地域ではお祭りなどの行事が再開されつつあり、感染状況を鑑みながら参加をしている。今後は、以前行っていたようなボランティア等の受入れや地域住民を交えた施設行事などを、積極的に地域に発信して交流する取組みを検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に本社による、統一の研修を行った後、会社の理念やミッション、ビジョンに沿って、事業所にて理念を作成し、実践を行っている。	法人のビジョン、ミッションが記載された冊子を用い、朝礼、夕礼で理念の唱和をしている。職員への浸透や理解度には差があり、管理者は理念の実現に向けた取組の推進、理解度の底上げに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや秋のお祭りも今年度より4年ぶりに開催され参加することが可能となった。運営推進会議時に地域の区長、民生委員の参加により地域の状況を確認しながら、今後地域行事に参加出来るようにすすめている。	施設の近くには福祉施設が多く存在し、他施設のイベントに利用者と一緒に参加している。区長とは長年の関りで良好な関係があり、他施設との連携は区長を通して図られている。	状況に応じた家族等の面会制限の緩和や、訪問、ボランティアの受け入れなど、施設内部にとどまらない支援の再開に向けた取組みに期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年4月より、行政、地域包括、区長、民生委員、ご家族様、ご利用者様等その時の状況に合わせて、当ホームにて運営状況や意見等を聞き、サービス向上に向け開催しております。	コロナ感染症の5類移行後、対面での開催が再開された。市役所高齢福祉課担当者や地域包括支援センター、民生委員、利用者家族の参加が毎回あり、意見交換ができています。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの運営についてや事故時の対応について、ホームの活動内容や状況の報告を担当者へ行き、協力関係を構築に努めている。	日頃から運営や利用者に関する報告、相談のために市役所担当課を訪れ、顔の見える関係づくりや協力体制を構築している。行政からは主にメールでの情報発信があり、研修などに参加している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に不適切ケアチェックシートにて、不適切ケアや虐待がユニット内やホームにて行われていないかスタッフ自身が振り返り後、身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束を行わないケアを継続している。玄関の施錠は基本行っていない。	3ヶ月ごとに選任された職員が、身体拘束や虐待についてチェックシートを使用して、客観的に日々の支援を評価し、結果を委員会で検討している。何が拘束にあたるのかは職員全員が理解し、定期的な研修で意識向上を図っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	入居契約以前より、本人やご家族が不安に思っている事がないか確認し、リーダーやケアマネジャーとも共有している。説明する際は、ゆっくり丁寧にすることを心掛けている。	法人では以前より身体拘束と虐待防止について取組み、職員に浸透している。しかし、価値観や認識のずれ、介護が重なる焦りから、意図しない不適切なケアや言葉掛けが行われることがあり、その都度管理者が指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人やご家族が不安に思っている事がないか確認し、一つ一つ丁寧に説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へのアンケートやご家族様訪問時や電話連絡時に会話の機会を設け、意見を出しやすい環境を整え、意見を徴収し、運営に反映させている。	電話や面会の機会に利用者の様子を伝えたり、ホーム新聞や写真により、施設の状況や利用者の様子を伝えている。コロナ禍においてもクラスター発生時を除いて、玄関先での面会を継続し、家族との関係維持に努めていた。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やホーム会議、ユニット会議にて意見交換を行ったり、会社として職員アンケートを随時行い、改善に努めている。	日常的に管理者に要望などを相談する機会があり、内容に応じた対応がある。3か月に1回定期的に個人面談の機会がある。日常の業務についてはユニット会議で検討している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度を設け段位設定し各段位によって求められている能力を明確にしている。評価時に昇段出来なかった場合でも、何が出来ていないのかを提示し、次回評価時までに来るように育成をしている。	人事考課を行い個人の業務評価をする仕組みがある。法人の福利厚生システムは職員定着とスキル向上の動機づけに寄与している。家族を介護している職員へは時短勤務や、管理者・職員同士のフォロー体制がある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の統一研修から、毎月定期的に社内研修を行っている。 介護福祉士や介護支援専門員等の資格支援にも力をいれ、外部講師を招き、年々合格率が高まっている。	今秋から法人作成の動画を活用した研修が、ホーム会議で行われている。管理者が、職員の階層に応じた研修や指導を行っている。資格取得支援制度があり、資格取得のための費用補助や教材の無償提供が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	営業活動に力を入れており、居宅へは、毎月訪問し交流を行い、待機者や空室状況の共有を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様にもご協力いただきながら、本人様にとって過ごしやすく、生活しやすい環境の提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様との会話や面会時や電話にてご家族様にも話を聞かせて頂き、本人様の思いや意向に添えるように努めている。	本人に直接話を聞いたり、関りの中で思いや希望を汲取っている。面会や電話、メールをする機会に家族の希望を聞き、ケアプランに反映させている。聞き取ったことは記録に残し、情報共有に努めている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、訪問看護師、主治医等からの関係各位の意見も徴収し、介護計画を定期的に更新し、介護計画の作成を行い、更新時はモニタリング後、利用者の状況や意向について検討を行い介護計画を作成している。	ケアプランの更新は3ヶ月を定期とし、状態や希望の変化時にも介護職員、看護師、医師の多職種で検討し、作成している。利用者の様子をユニット会議や日常の中で把握し、ケアプランの評価と課題の抽出を行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの日々のご利用者との関わりで気づきを記録に残した後に、データを蓄積し、必要時にデータ分析し介護計画の見直しに活用している。	記録は介護ソフトと個別ファイルで管理している。食事や排泄、バイタルなどのチェック項目の入力以外に、個別の記録を特記事項として入力し、その後のデータ集計やケアプランへの反映、申し送り項目として抽出することができる。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のその時の状況に合わせ、必要としてサービスを提供できるように、行政をはじめとする、地域資源を集約し既存のサービスのみにとらわれない様に多機能化に取り組んでいる。	家族が付き添えない通院の支援や、行政等への手続き代行の支援など、利用者や家族に合わせて、希望や状況に応じできる限りの支援を提供する、前向きな取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過でも、施設の回りの住民の方や介護施設とは、意見交換を行ってきたが、今後はより地域資源の活用し協働に努めたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望に沿い、かかりつけ医を選ばれている。 各病院とは情報を共有しながら連携を行っている。	施設近くのかかりつけ医による定期的な訪問診療がある。また、訪問看護師による週1回定期訪問と必要時の訪問、電話相談による24時間の医療支援体制がある。他科受診や入院が必要なときは、かかりつけ医による紹介や医療連携がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホーム長が定期的にご家族様との情報共有を行い、ホーム長及び介護支援専門員が病院の相談員と対応し、より円滑な退院時の受け入れ準備を行っている。	入院時は日常の様子を情報提供する目的もあり、職員が同行している。施設、病院間はサマリーを介して情報提供を行う。病院の相談員から退院前カンファレンスの連絡があり、早期退院に向け、家族の意向を確認して受入れの調整を行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学時や入所前の契約時に看取りの対応をお伝えし、終末期に入る前に主治医・訪問看護師と連携を取り、ご家族様との方針を共有し、安心して頂ける看取りが出来る体制に努めている。	看取り介護に関する指針があり、入居時に家族に説明している。重度化や状態の悪化があれば、家族に看取りに関する意向を確認し、かかりつけ医と相談し方針を決定している。主治医とは、その都度気軽に相談できる関係が確立している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練及び防災訓練を行い、新入社員は入社時に感染症の研修等を行い、実践力を養っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、防災訓練を行い、近隣施設との災害時の協力依頼をすすめている。防災用品も完備し、停電時に備えている。	消防署による災害対策セミナーでは、火災時の避難シミュレーションや全員を屋外に避難するにはどうするか、具体的な指導があった。今後、救急救命講習の受講を再開する予定がある。	地域には多くの高齢者施設や社会福祉施設がある。災害時など、何かあった際の協力体制の構築の検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、声掛けや言葉使いの仕方はホーム会議やユニット会議を通じ全職員へ周知している。スタッフの声掛けや言葉使いに違和感を感じたら都度注意指導している。	接遇研修が定期的であり、職員の意識は統一されて実践に活かされている。親しみと尊敬の気持ちを持ち、利用者一人ひとりに合った話し方や言葉遣いを心掛けている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが無理強いをするのではなく、入居者様のご自身の思いで自己決定出来るような声掛けをスタッフが言い支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活出来るように、アセスメント収集時より、本人様の希望が叶えられるように取り組んでいる。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望により、メニューを変更することもある。定期的と一緒におやつを作りをしている。テーブルを拭いて頂いたり、食器洗いを手伝っていただいている。	食事が何よりの楽しみであるとし、誕生日やイベント時、季節の行事食など普段とは異なる趣向を凝らしたメニューを工夫している。利用者からのリクエストメニューを取り入れながら、喜んでもらえる食事を提供している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックしている。又自立支援介護の取組み継続しており、その方に合った適切な食事量(栄養)や水分量を確保できるように支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。義歯の方は、夜間帯は預かり消毒をしている。訪問歯科による口腔ケア治療は希望者のみ行っている。	訪問歯科診療や歯科衛生士の訪問があり、希望する利用者は指導が受けられる。利用者の状態に応じた口腔ケア用品を用い、口腔内の清潔保持や乾燥予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ノータイス(記録)のデータ内にて、排泄の有無や回数を管理している 自立の方は本人様の意思で付き添い、介助が必要な方は定期的に声掛け誘導をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の要望に合わせて対応している。 楽しみとなるよう季節に合わせた入浴(菖蒲・柚子)も取り入れるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の意思を尊重しながら、日中はなるべく覚醒できるように、レクリエーションや役割を持つことにより、昼間の活動性を高め、夜間の安眠に繋げている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人様の意思を尊重しながら、日中はなるべく覚醒できるように、レクリエーションや役割を持つことにより、昼間の活動性を高め、夜間の安眠に繋げている。	かかりつけ薬剤師が処方薬の配達とセットを行い、服薬は職員がダブルチェックを行うことで誤薬ゼロが継続している。「薬剤情報提供書」はファイルに綴じてあり、いつでも確認できる。職員は医師、薬剤師に薬の相談をしたり、指導を受けている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事を発揮できるようにその方に合った役割や楽しみが提供できる様な環境作りを行っている。	できることや、やりたいことを利用者が役割として担っているが、利用者の身体機能の低下や認知症状の進行に伴い、できることは変化していく。状況に合わせて無理のない範囲での支援を実施している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5類に以降後もコロナやインフルエンザの流行により、行事での外出は人込みを避けた場所に出かけたが、今後は出かけられるようにしたい。	施設周辺の散歩はコロナ禍でも継続し、気分転換を図っている。日頃風呂は苦手だという利用者を日帰り温泉に誘い、出かけたところとても喜ばれたエピソードがある。コロナの感染状況を鑑みながら、外出機会を増やしていく計画がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己にて所持している方は、現在おられないが自身で管理できるよう方が入所時は自己にて管理できる様に支援を行いたい。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた時は、本人様にお声掛けをし返事を一緒に考え返信をしている。本人様から要望があれば、都度ご家族様へ電話や手紙等が出せるように対応を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方々が安心して、寛げる施設であるために、環境整備を行っている。	フロアには、利用者と共に制作した季節の飾り付けがある。居室は感染症対策のため換気され、安全に暮らすための配慮がある。使い慣れた家具を持ち込み、落ち着いて過ごせる居室作りをしている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を自由に過ごせるように、その方に合った居場所づくりに努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使っていただけるよう、入所前にご家族様にすすめ、入所後の環境変化を極力少なくする、工夫を行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に写真入りの表札を掛け、トイレ等にも分かりやすいように目印をつけるなどし、出来る限り、自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100544		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム多治見		
所在地	岐阜県多治見市旭ヶ丘町7-9-12		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171100544-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の自立支援をすすめるために、令和1年12月よりご利用者様の1日の水分・栄養(タンパク質)の摂取量を高め・運動を強化することによる、筋力運動を推奨に取り組んできました。この取り組みにより、昼夜逆転傾向の方の減少や、高齢の方であっても食事をもりもりと取ることが出来、元気に日々生活されています。
令和5年5月より、新型コロナも5類に以降しコロナ前の生活に戻りつつあり、その時の状況に合わせて対応を行っております。地域活動への参加も地域の方々と連携を取りながらすすめております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に本社による、統一の研修を行った後、会社の理念やミッション、ビジョンに沿って、事業所にて理念を作成し、実践を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや秋のお祭りも今年度より4年ぶりに開催され参加することが可能となった。運営推進会議時に地域の区長、民生委員の参加により地域の状況を確認しながら、今後地域行事に参加出来るようにすすめている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年4月より、行政、地域包括、区長、民生委員、ご家族様、ご利用者様等その時の状況に合わせて、当ホームにて運営状況や意見等を聞き、サービス向上に向け開催しております。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの運営についてや事故時の対応について、ホームの活動内容や状況の報告を担当者へ行い、協力関係を構築に努めている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に不適切ケアチェックシートにて、不適切ケアや虐待がユニット内やホームにて行われていないかスタッフ自身が振り返り後、身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束を行わないケアを継続している。玄関の施錠は基本行っていない。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居契約以前より、本人やご家族が不安に思っている事がないか確認し、リーダーやケアマネジャーとも共有している。説明する際は、ゆっくり丁寧にすることを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人やご家族が不安に思っている事がないか確認し、一つ一つ丁寧に説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へのアンケートやご家族様訪問時や電話連絡時に会話の機会を設け、意見を出しやすい環境を整え、意見を徴収し、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やホーム会議、ユニット会議にて意見交換を行ったり、会社として職員アンケートを随時行い、改善に努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度を設け段位設定し各段位によって求められている能力を明確にしている。評価時に昇段出来なかった場合でも、何が出来ていないのかを提示し、次回評価時まで出来るように育成をしている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の統一研修から、毎月定期的に社内研修を行っている。 介護福祉士や介護支援専門員等の資格支援にも力をいれ、外部講師を招き、年々合格率が高まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	営業活動に力を入れており、居宅へは、毎月訪問し交流を行い、待機者や空室状況の共有を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様にもご協力いただきながら、本人様にとって過ごしやすく、生活しやすい環境の提供に努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様との会話や面会時や電話にてご家族様にも話を聞かせて頂き、本人様の思いや意向に添えるように努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、訪問看護師、主治医等からの関係各位の意見も徴収し、介護計画を定期的に更新し、介護計画の作成を行い、更新時はモニタリング後、利用者の状況や意向について検討を行い介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの日々のご利用者との関わりで気づきを記録に残した後に、データを蓄積し、必要時にデータ分析し介護計画の見直しに活用している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のその時の状況に合わせ、必要としてサービスを提供できるように、行政をはじめとする、地域資源を集約し既存のサービスのみにとらわれない様に多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過でも、施設の回りの住民の方や介護施設とは、意見交換を行ってきたが、今後はより地域資源の活用し協働に努めたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望に沿い、かかりつけ医を選ばれている。 各病院とは情報を共有しながら連携を行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホーム長が定期的にご家族様との情報共有を行い、ホーム長及び介護支援専門員が病院の相談員と対応し、より円滑な退院時の受け入れ準備を行っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学時や入所前の契約時に看取りの対応をお伝えし、終末期に入る前に主治医・訪問看護師と連携を取り、ご家族様との方針を共有し、安心して頂ける看取りが出来る体制に努めている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練及び防災訓練を行い、新入社員は入社時に感染症の研修等を行い、実践力を養っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、防災訓練を行い、近隣施設との災害時の協力依頼をすすめている。防災用品も完備し、停電時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、声掛けや言葉使いの仕方はホーム会議やユニット会議を通じ全職員へ周知している。スタッフの声掛けや言葉使いに違和感を感じたら都度注意指導している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが無理強いをするのではなく、入居者様のご自身の思いで自己決定出来るような声掛けをスタッフが行い支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活出来るように、アセスメント収集時より、本人様の希望が叶えられるように取り組んでいる。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望により、メニューを変更することもある。定期的と一緒におやつを作りをしている。テーブルを拭いて頂いたり、食器洗いを手伝っていただいている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックしている。又自立支援介護の取組み継続しており、その方に合った適切な食事量(栄養)や水分量を確保できるように支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。義歯の方は、夜間帯は預かり消毒をしている。訪問歯科による口腔ケア治療は希望者のみ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ノータイス(記録)のデータ内にて、排泄の有無や回数を管理している 自立の方は本人様の意思で付き添い、介助が必要な方は定期的に声掛け誘導をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の要望に合わせて対応している。 楽しみとなるよう季節に合わせた入浴(菖蒲・柚子)も取り入れるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の意思を尊重しながら、日中はなるべく覚醒できるように、レクリエーションや役割を持つことにより、昼間の活動性を高め、夜間の安眠に繋げている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人様の意思を尊重しながら、日中はなるべく覚醒できるように、レクリエーションや役割を持つことにより、昼間の活動性を高め、夜間の安眠に繋げている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事を発揮できるようにその方に合った役割や楽しみが提供できる様な環境作りを行っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5類に以降後もコロナやインフルエンザの流行により、行事での外出は人込みを避けた場所に出かけたが、今後は出かけられるようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己にて所持している方は、現在おられないが自身で管理できるよう方が入所時は自己にて管理できる様に支援を行いたい。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた時は、本人様にお声掛けをし返事を一緒に考え返信をしている。本人様から要望があれば、都度ご家族様へ電話や手紙等が出せるように対応を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方々が安心して、寛げる施設であるために、環境整備を行っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を自由に過ごせるように、その方に合った居場所づくりに努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使っていただけるよう、入所前にご家族様にすすめ、入所後の環境変化を極力少なくする、工夫を行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に写真入りの表札をかけ、トイレ等にも分かりやすいように目印をつけるなどし、出来る限り、自立した生活が送れるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100544		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム多治見		
所在地	岐阜県多治見市旭ヶ丘町7-9-12		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171100544-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の自立支援をすすめるために、令和1年12月よりご利用者様の1日の水分・栄養(タンパク質)の摂取量を高め・運動を強化することによる、筋力運動を推奨に取り組んできました。この取り組みにより、昼夜逆転傾向の方の減少や、高齢の方であっても食事をもりもりと取ることが出来、元気に日々生活されています。

令和5年5月より、新型コロナも5類に以降しコロナ前の生活に戻りつつあり、その時の状況に合わせて対応を行っております。地域活動への参加も地域の方々と連携を取りながらすすめております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に本社による、統一の研修を行った後、会社の理念やミッション、ビジョンに沿って、事業所にて理念を作成し、実践を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや秋のお祭りも今年度より4年ぶりに開催され参加することが可能となった。運営推進会議時に地域の区長、民生委員の参加により地域の状況を確認しながら、今後地域行事に参加出来るようにすすめている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年4月より、行政、地域包括、区長、民生委員、ご家族様、ご利用者様等その時の状況に合わせて、当ホームにて運営状況や意見等を聞き、サービス向上に向け開催しております。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの運営についてや事故時の対応について、ホームの活動内容や状況の報告を担当者へ行い、協力関係を構築に努めている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に不適切ケアチェックシートにて、不適切ケアや虐待がユニット内やホームにて行われていないかスタッフ自身が振り返り後、身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束を行わないケアを継続している。玄関の施錠は基本行っていない。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居契約以前より、本人やご家族が不安に思っている事がないか確認し、リーダーやケアマネジャーとも共有している。説明する際は、ゆっくり丁寧にすることを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人やご家族が不安に思っている事がないか確認し、一つ一つ丁寧に説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へのアンケートやご家族様訪問時や電話連絡時に会話の機会を設け、意見を出しやすい環境を整え、意見を徴収し、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談やホーム会議、ユニット会議にて意見交換を行ったり、会社として職員アンケートを随時行い、改善に努めている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	キャリアパス制度を設け段位設定し各段位によって求められている能力を明確にしている。評価時に昇段出来なかった場合でも、何が出来ていないのかを提示し、次回評価時まで出来るように育成をしている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の統一研修から、毎月定期的に社内研修を行っている。 介護福祉士や介護支援専門員等の資格支援にも力をいれ、外部講師を招き、年々合格率が高まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	営業活動に力を入れており、居宅へは、毎月訪問し交流を行い、待機者や空室状況の共有を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族様にもご協力いただきながら、本人様にとって過ごしやすく、生活しやすい環境の提供に努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様との会話や面会時や電話にてご家族様にも話を聞かせて頂き、本人様の思いや意向に添えるように努めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、訪問看護師、主治医等からの関係各位の意見も徴収し、介護計画を定期的に更新し、介護計画の作成を行い、更新時はモニタリング後、利用者の状況や意向について検討を行い介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの日々のご利用者との関わりで気づきを記録に残した後に、データを蓄積し、必要時にデータ分析し介護計画の見直しに活用している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のその時の状況に合わせ、必要としてサービスを提供できるように、行政をはじめとする、地域資源を集約し既存のサービスのみにとらわれない様に多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過でも、施設の回りの住民の方や介護施設とは、意見交換を行ってきたが、今後はより地域資源の活用し協働に努めたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望に沿い、かかりつけ医を選ばれている。 各病院とは情報を共有しながら連携を行っている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホーム長が定期的にご家族様との情報共有を行い、ホーム長及び介護支援専門員が病院の相談員と対応し、より円滑な退院時の受け入れ準備を行っている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学時や入所前の契約時に看取りの対応をお伝えし、終末期に入る前に主治医・訪問看護師と連携を取り、ご家族様との方針を共有し、安心して頂ける看取りが出来る体制に努めている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練及び防災訓練を行い、新入社員は入社時に感染症の研修等を行い、実践力を養っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、防災訓練を行い、近隣施設との災害時の協力依頼をすすめている。防災用品も完備し、停電時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、声掛けや言葉使いの仕方はホーム会議やユニット会議を通じ全職員へ周知している。スタッフの声掛けや言葉使いに違和感を感じたら都度注意指導している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが無理強いをするのではなく、入居者様のご自身の思いで自己決定出来るような声掛けをスタッフが言い支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活出来るように、アセスメント収集時より、本人様の希望が叶えられるように取り組んでいる。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望により、メニューを変更することもある。定期的と一緒におやつを作りをしている。テーブルを拭いて頂いたり、食器洗いを手伝っていただいている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックしている。又自立支援介護の取組み継続しており、その方に合った適切な食事量(栄養)や水分量を確保できるように支援している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。義歯の方は、夜間帯は預かり消毒をしている。訪問歯科による口腔ケア治療は希望者のみ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ノータイス(記録)のデータ内にて、排泄の有無や回数を管理している 自立の方は本人様の意思で付き添い、介助が必要な方は定期的に声掛け誘導をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の要望に合わせて対応している。 楽しみとなるよう季節に合わせた入浴(菖蒲・柚子)も取り入れるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の意思を尊重しながら、日中はなるべく覚醒できるように、レクリエーションや役割を持つことにより、昼間の活動性を高め、夜間の安眠に繋げている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人様の意思を尊重しながら、日中はなるべく覚醒できるように、レクリエーションや役割を持つことにより、昼間の活動性を高め、夜間の安眠に繋げている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な事を発揮できるようにその方に合った役割や楽しみが提供できる様な環境作りを行っている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5類に以降後もコロナやインフルエンザの流行により、行事での外出は人込みを避けた場所に出かけたが、今後は出かけられるようにしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己にて所持している方は、現在おられないが自身で管理できるよう方が入所時は自己にて管理できる様に支援を行いたい。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届いた時は、本人様にお声掛けをし返事を一緒に考え返信をしている。本人様から要望があれば、都度ご家族様へ電話や手紙等が出せるように対応を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方々が安心して、寛げる施設であるために、環境整備を行っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を自由に過ごせるように、その方に合った居場所づくりに努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを使っただけのよう、入所前にご家族様にすすめ、入所後の環境変化を極力少なくする、工夫を行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に写真入りの表札をかけ、トイレ等にも分かりやすいように目印をつけるなどし、出来る限り、自立した生活が送れるように支援している。		